

社会に仕える③

- 1) 職場で、また学校で、どのようにして証しをするのでしょうか？
- 2) これまで、「これを言われたら、クリスチャンやめないといけないのでは？」というような命令を受けたことがありましたか？
- 3) 学校や職場で、イエス様を求めるようになった人、信じるようになった人はいますか？

「神をあがめる王」ダニエル 2 - 4 章

1A キリスト者の証し 2

- 1B 知恵による応対と祈り 12-23
- 2B 聞かれたことによる証し 24-30
- 3B 異教の王の反応 46-49

2A 試練 3

- 1B 政治的な儀礼 1-7
- 2B 妬みによる中傷 8-12
- 3B 形と心からの献身 13-18
- 4B 神を自分に当てはめない王 28-30

3A 王自身のへりくだり 4

- 1B 自分自身の賛美 1-3
- 2B 王の認める聖なる霊 8、18
- 3B 思慮深い助言 19、27
- 4B 自分自身の受けた懲らしめ 28-37

本文

社会に仕える③において、私たちは、ペテロ第一 2 章 12 節の言葉を、ダニエルの生涯から眺めていきたいと思います。「異邦人の中にあつて、りっぱにふるまいなさい。そうすれば、彼らは、何かのことであなたがたを悪人呼ばわりしていても、あなたがたのそのりっぱな行ないを見て、おとずれの日に神をほめたたえるようになります。」ダニエルや友人三人のりっぱな振る舞いによって、異邦人であるネブカデネザルが、彼らを悪人呼ばわりしても、それでも神をほめたたえるようになった、その証しです。2章から4章に至るまでのところを読んでいきます。

1A キリスト者の証し 2

時は、ネブカデネザル王の治世の第二年です。その治世の初頭に、これからどのようにしてこの広大な土地を治めるのか、思い巡らしていたことでしょう。その時に、彼は夢をいくつか見ました。あまりにも生々しく、心が騒ぎ、眠れなくなりました。それで、彼は自分の側近である呪法師や呪文

師、呪術者を連れてきました。そして彼は、難問を彼らに投げます。「夢と説き明かしを知らせなさい。」夢を聞いて、それを解き明かすのではなく、その夢自体も知らせなさいと言ったのです。それは、彼がこれまでの夢と異なり、必ずこれには意味があり、確かなものであることを、夢も知らせることによって知るためであったと思われる。夢を伝えれば、それこそ適当に、「それは、こうこう、そういう意味です。」とすることができるでしょう。そこで呪法師や呪文師、呪術者は戸惑いました。夢を知らせてくださいと。しかし、ネブカデネザルは怒り始めました。そして彼らは、「こんなことを私たちに尋ねる王はいませんでした。肉なる者とその住まいを共にしない神々以外には、それを王の前に示すことのできる者はいません。(2:11 参照)」と言いました。つまり、自分たちの神々では限界だ、天の神でなければ解き明かすことはできない、と言ったのです。彼らの言ったことは本当です、天の神は、異教を信じる王の中に、ご自分にしか示すことのできない事柄を夢の中で示しておられたのです。

王は大いに長けり狂いました。そして何と、バビロンの知者を全て殺せ、と命じたのです！これは極端ですが、王は本気でした。偽物であるならば、お前たちは要らない！と怒ったのでしょう。ここからドラマが始まります。

1B 知恵による応対と祈り 12-23

2:12 王は怒り、大いにたけり狂い、バビロンの知者をすべて滅ぼせと命じた。2:13 この命令が発せられたので、知者たちは殺されることになった。また人々はダニエルとその同僚をも捜して殺そうとした。2:14 そのとき、ダニエルは、バビロンの知者たちを殺すために出て来た王の侍従長アルヨクに、知恵と思慮とをもって応待した。2:15 彼は王の全権を受けたアルヨクにこう言った。「どうしてそんなにきびしい命令が王から出たのでしょうか。」それで、アルヨクは事の次第をダニエルに知らせた。2:16 ダニエルは王のところに行き、王にその解き明かしをするため、しばらくの時を与えてくれるように願った。

セッション②でもお話したように、ダニエルは上の権威者に対して、知恵をもって応対しています。「知恵と思慮とをもって応待した」とあります。先の、王の食べる肉で身を汚さないと心に決めた時と同じように、任務についている者に寄り添い、相手の立場のことを考えながら、共に考える姿勢を持っていたのです。

私たちは、知恵という言葉を知ると「世の中をやりくりする術」というように考えてしまいます。災いが起こらないようにするだけのための、方法論であります。けれども、キリスト者の知恵というのは「平和」を求めることです。相反するものが対立している時に、両者を納得させ、満足させることのできる、その間に立つ言葉になります。「ヤコブ 3:14-18 しかし、もしあなたがたの心の中に、苦いねたみと敵対心があるならば、誇ってはいけません。真理に逆らって偽ることになります。そのような知恵は、上から来たものではなく、地に属し、肉に属し、悪霊に属するものです。ねたみや敵

対心のあるところには、秩序の乱れや、あらゆる邪悪な行ないがあるからです。しかし、上からの知恵は、第一に純真であり、次に平和、寛容、温順であり、また、あわれみと良い実とに満ち、えこひいきがなく、見せかけのないものです。義の実を結ばせる種は、平和をつくる人によって平和のうちに蒔かれます。」

知恵を持つというのは、ある意味、回り道をすることです。先の 1 章においても、十日間、野菜だけを食べさせ、試してくださいというのもそうですが、相手の側に立って物事を進めることは、一定のプロセスを必要とします。けれども、キリスト者はとかく、正義感からそのような面倒くさいプロセスを省く傾向にあります。そして純粋であれば、それが良いのだと考えるのです。語弊を恐れずに言えば、私たちは一緒に泥を飲むのです。キリスト者ぶってはいけないのです。きれいになってはいけない。もし相手の立場であれば、こう考えるであろうという理解や共感において、もしかしたらキリスト者としてふさわしくないのではないかとと思われるようであっても、それはあくまでも共感や理解であり、妥協することではありません。自分が純粋であることが目的ではなく、相手からの信頼を得て、証しを立てていくことが目的です。

2:17 それから、ダニエルは自分の家に帰り、彼の同僚のハナヌヤ、ミシャエル、アザルヤにこのことを知らせた。2:18 彼らはこの秘密について、天の神のあわれみを請い、ダニエルとその同僚が他のバビロンの知者たちとともに滅ぼされることのないようにと願った。2:19 そのとき、夜の幻のうちにこの秘密がダニエルに啓示されたので、ダニエルは天の神をほめたたえた。2:20 ダニエルはこう言った。「神の御名はとこしえからとこしえまでほむべきかな。知恵と力は神のもの。2:21 神は季節と時を変え、王を廃し、王を立て、知者には知恵を、理性のある者には知識を授けられる。2:22 神は、深くて測り知れないことも、隠されていることもあらし、暗黒にあるものを知り、ご自身に光を宿す。2:23 私の先祖の神。私はあなたに感謝し、あなたを賛美します。あなたは私に知恵と力を賜い、今、私たちがあなたにこいねがったことを私に知らせ、王のことを私たちに知らせてくださいました。」

知恵と力の神が、国々の王たちを倒し、また立てるところにある神の知恵を示してくださいました。人々の知りようのない暗闇や深みのところも、神の光が宿っています。私たちがキリスト者であるとうことは、御霊によってそのような深みの中に入り、光となる使命が与えられています。キリスト者であれば、他の人々が、知りようがない心の動きや深みについて、理解と知恵が与えられることでしょう。キリストの十字架にこそ、知恵と力が隠されていますが、その中に生きている私たちに与えられるものがあります。その知識をしっかりと持って、人々に仕えます。

2B 聞かれたことによる証し 24-30

2:24 それからダニエルは、王がバビロンの知者たちを滅ぼすように命じておいたアルヨクのもとに行き、彼にこう言った。「バビロンの知者たちを滅ぼしてはなりません。私を王の前に連れて行っ

てください。私が王に解き明かしを示します。」2:25 そこで、アルヨクは急いでダニエルを王の前に連れて行き、王にこう言った。「ユダからの捕虜の中に、王に解き明かしのできるひとりの男を見つけました。」2:26 それで王は、ベルテシャツアルという名のダニエルに言った。「あなたは私が見た夢と、その解き明かしを私に示すことができるのか。」2:27 ダニエルは王に答えて言った。「王が求められる秘密は、知者、呪文師、呪法師、星占いも王に示すことはできません。2:28 しかし、天に秘密をあらわすひとりの神がおられ、この方が終わりの日に起こることをネブカデネザル王に示されたのです。あなたの夢と、寝床であなたの頭に浮かんだ幻はこれです。2:29 王さま。あなたは寝床で、この後、何が起こるのかと思ひ巡らされましたが、秘密をあらわされる方が、後に起こることをあなたにお示しになったのです。2:30 この秘密が私にあらわされたのは、ほかのどの人よりも私に知恵があるからではなく、その解き明かしが王に知らされることによって、あなたの心の思いをあなたがお知りになるためです。

ダニエルが、王の前で答えています。ここ26節で、王がダニエルに解き明かしができるのかと尋ねているところが大事です。聞かれたので、彼がそれに答えています。私たちが社会において、自ら宣伝するのではなく、「聞かれたら答える」という姿勢によって、言葉以上の行ないによる証しを立てることができます。「1ペテロ 3:14-16 いや、たとえ義のために苦しむことがあるにしても、それは幸いなことです。彼らの脅かしを恐れたり、それによって心を動揺させたりしてはいけません。むしろ、心の中でキリストを主としてあがめなさい。そして、あなたがたのうちにある希望について説明を求める人には、だれにでもいつでも弁明できる用意をしていなさい。ただし、優しく、慎み恐れて、また、正しい良心をもって弁明しなさい。そうすれば、キリストにあるあなたがたの正しい生き方をののしる人たちが、あなたがたをそしったことで恥じ入るでしょう。」

そしてダニエルが王に仕える誠実さが、ここに表れています。30節に、「その解き明かしが王に知らされることによって、あなたの心の思いをあなたがお知りになるため」と、自分に知恵があるかどうかということではなく、王の利益のことを考えて、このことを伝えようとしているのです。キリストに仕えるように、王に仕えているわけです。私たちが、上司のこと、会社のことを考え、その利益を求めることは良いことです。御心になっっています。

3B 異教の王の反応 46-49

そして、31節から、あの有名な、人の像の夢をダニエルは伝えます。そして、その夢の意味するところも解き明かします。彼は45節で、この夢について、「大いなる神が、これから後に起こることを王に知らされたのです。」と言って、天の神がおられることを証しています。このようにして、ダニエルは、イスラエルの神について全く関心のないネブカデネザルに寄り添い、相手が聞いてきたから答え、王の福利を考え、そして人の心の奥深くにある闇になっているところに神が光を照らしてくださったことを話しました。そしてネブカデネザルが反応します。

2:46 それで、ネブカデネザル王はひれ伏してダニエルに礼をし、彼に、穀物のささげ物となだめのかおりとをささげるように命じた。2:47 王はダニエルに答えて言った。「あなたがこの秘密をあらわすことができたからには、まことにあなたの神は、神々の神、王たちの主、また秘密をあらわす方だ。」

異教の王、多神教の神々を拝む王ならではの反応です。ダニエル本人に対して、捧げ物をささげるように命じています。新約聖書では、使徒ペテロに対して百人隊長コルネリオが、ひれ伏してペテロを拝もうとした時に、「私も同じ人間です。」と言って断ったのを見ます。天の神を知らない人々は、このように創造主ではなく、用いられる器をそのまま拝む傾向があります。しかし、正しい発言もしていますね。あなたの神は、神々の神、王たちの主、秘密をあらわす方とっています。ダニエルの言っていること、その証しに正しく答えたのです。

2:48 そこで王は、ダニエルを高い位につけ、彼に多くのすばらしい贈り物を与えて、彼にバビロン全州を治めさせ、また、バビロンのすべての知者たちをつかさどる長官とした。2:49 王は、ダニエルの願いによって、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴに、バビロン州の事務をつかさどらせた。しかしダニエルは王の宮廷にとどまった。

ダニエルを王は高い位に付けています。全州を治めさせて、知者たちをつかさどる長官としています。そしてダニエルも、三人の友人をバビロン州でつかさどる務めをさせていただけるよう王に願いました。キリスト者は、このように高い位について良いのです。あるキリスト教学生団体の元主事は、こう言いました。「キリスト者は、世の中で偉い人にならないといけない。」これは、一見、世的に聞こえるかもしれませんが。けれども、ダニエルと同じように、多くのキリスト者が証言していることです。会社において、組織において、間違っていることが行なわれていることに気づいて、それを指摘し、組織とぶつかっても、対立が生じるだけで、何か良い物がそこから出て来ません。ですから、徹底して上司に仕え、そして成果を出して、信頼を勝ち得て、それから高い地位に着くことができたなら、これが正しいことだ、主の御心にかなうことだと思われることを行なう権限が与えられるのです。

2A 試練 3

1B 政治的な儀礼 1-7

3:1 ネブカデネザル王は金の像を造った。その高さは六十キュビト、その幅は六キュビトであった。彼はこれをバビロン州のドラの平野に立てた。3:2 そして、ネブカデネザル王は人を遣わして、太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官を召集し、ネブカデネザル王が立てた像の奉献式に出席させることにした。3:3 そこで太守、長官、総督、参議官、財務官、司法官、保安官、および諸州のすべての高官は、ネブカデネザル王が立てた像の奉献式に集まり、ネブカデネザル王が立てた像の前に立った。3:4 伝令官は大声で叫んだ。「諸民、諸国、

諸国語の者たちよ。あなたがたにこう命じられている。3:5 あなたがたが角笛、二管の笛、立琴、三角琴、ハーブ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞くときは、ひれ伏して、ネブカデネザル王が立てた金の像を拝め。3:6 ひれ伏して拝まない者はだれでも、ただちに火の燃える炉の中に投げ込まれる。」3:7 それで、民がみな、角笛、二管の笛、立琴、三角琴、ハーブ、および、もろもろの楽器の音を聞いたとき、諸民、諸国、諸国語の者たちは、ひれ伏して、ネブカデネザル王が立てた金の像を拝んだ。

時は、おそらくネブカデネザルの治世の半ばであろうと考えられます。バビロン州の平野に、バビロン全土の高官たちを集めて、この金の像に拝ませる儀式を行ないました。これは、権力を自らの集中させるための手段です。江戸時代でいう、参勤交代みたいなものです。忠誠を誓わせているのです。しかし、ネブカデネザルは、かつてダニエルによって解き明かしをもらった、人の像について、とてつもない曲解をしています。ダニエルの見た像は、バビロンを表すのは金の頭であり、頭の後に銀に取って変えられるというものでした。ところが、今ここでは全身が金の像を造らせています。彼の頭の中で、神からの啓示をダニエルによって与えられたのに、自分の権力欲によってその啓示を真っ向から否定する像を造らせたのです。永遠にバビロンの栄光は輝く、ということでもあります。

ここで不気味なのは、像の寸法です。「六十キュビトと六キュビト」ですが、これは人間を表す数字で、そのために黙示録 13 章には、666 の数字が獣の国の刻印として使われます。まさに、ネブカデネザルの像は、後に獣の国、反キリストの行なうことを予表しているものです。反キリストの霊は、歴史においてずっと働いており、政治的な権力をもたせるために、自らを神格化していくことというはいつでも起こりました。ローマ皇帝もそうですし、フランス革命でも、理性の女神を教会の中で拝ませたりしたそうです。スターリン、毛沢東、金日成、ポルポトたちの共産主義による思想統制にも、指導者を拝ませる体制がありました。我が国、日本でも、国家神道において天皇が現人神になり、それを拝ませる歴史を持っています。

社会において私たちは主に従うように、従うという姿勢を持っているのですが、1章にあった王の食べるごちそうによって身を汚すというように、私たちの主に対する献身、礼拝の中に、政治のこと、社会、また文化のことが入り込んで来る時があります。本人たちは、それらを飽くまでも政治の手段、文化、社会的な慣わしとして考えているのですが、キリスト者にとってはそうではないことがあるのです。そのような時に、私たちは「死んでも従いません」とう態度を取る必要があります。キリスト者は、キリストの律法の中にいます。新約聖書にある、使徒たちの教えにある規範があります。ユダヤ人と同じように、偶像礼拝や不品行はいけません。偽りもいけません。盗みもいけません。酩酊もいけません。陰口や中傷もいけません。

そしてその他に、疑わしいことがあるでしょう。その時に大切なのは、「信仰と良心」です。ある人

にとってできていることであっても、自分がそれを行って罪であると思うなら、それは信仰によるものですから、やってはいけません。「ローマ 14:22-23 あなたの持っている信仰は、神の御前でそれを自分の信仰として保ちなさい。自分が、良いと認めていることによって、さばかれない人は幸福です。しかし、疑いを感じる人が食べるなら、罪に定められます。なぜなら、それが信仰から出ていないからです。信仰から出ていないことは、みな罪です。」ある人にとっては、自由に行なうことができるようなものでも、良心に痛みを感じるのであれば、絶対にはいけません。大事なものはその対象物ではなく、自分に与えられている良心と信仰だからです。

2B 妬みによる中傷 8-12

3:8 こういうことがあったその時、あるカルデヤ人たちが進み出て、ユダヤ人たちを訴えた。3:9 彼らはネブカデネザル王に告げて言った。「王よ。永遠に生きられますように。3:10 王よ。あなたは、『角笛、二管の笛、立琴、三角琴、ハープ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞く者は、すべてひれ伏して金の像を拝め。3:11 ひれ伏して拝まない者はだれでも、火の燃える炉の中へ投げ込め。』と命令されました。3:12 ここに、あなたが任命してバビロン州の事務をつかさどらせたユダヤ人シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴがおります。王よ。この者たちはあなたを無視して、あなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拝みもいたしません。」

カルデヤ人が、訴えています。ここの直訳は、「肉を食いちぎる」であります。何をしなくても、悪者扱いされると、ペテロ第一 2 章に書いてありましたね。これを彼らはいま行なっています。カルデヤ人は、バビロンの元来の民族です。大和民族のようなものです。それが、ユダヤ人という外国人が高い位について、良い働きをしているので、妬みによって中傷しています。さらに、ユダヤ人だからという意味合いもあります。選びの民に対する反感、妬みです。キリスト者も、時にその試練を受けます。キリストに仕えているということによって、そのつながりに妬みを持ちます。実は、そういう人たちは、全くキリスト教について知らない人ではなく、むしろ、近しい人たち、つまり教会に触れていたり、つまずいて教会から離れていたり、または教会で熱心であっても信仰に妥協があったりする人たちです。イエス様を訴えたのも、同じユダヤ教のラビたちであったことを思い出してください。ネブカデネザルのようにまことの神を知らない人、無関心な人たちは、無知によって、別の動機で私たちを迫害します。けれども、このように意図的に、確信的に反対する人たちもいます。

3B 形と心からの献身 13-18

3:13 そこでネブカデネザルは怒りたけり、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴを連れて来いと命じた。それでこの人たちは王の前に連れて来られた。3:14 ネブカデネザルは彼らに言った。「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴ。あなたがたは私の神々に仕えず、また私が立てた金の像を拝みもしないというが、ほんとうか。3:15 もしあなたがたが、角笛、二管の笛、立琴、三角琴、ハープ、風笛、および、もろもろの楽器の音を聞くときに、ひれ伏して、私が造った像を拝むなら、それでよし。しかし、もし拝まないなら、あなたがたはただちに火の燃える炉の中に投げ込まれる。どの神が、

私の手からあなたがたを救い出せよう。」

ここで、ネブカデネザルが妥協を迫っています。その内容は、「ただ形だけで良い」というものです。これが迫害するとき、妥協を迫る時の常です。心が伴っていないとよい、形だけやればよいのだ、ということでもあります。このことをキリスト者はしばしば、とんでもない間違いをしてしまいます。「そうだ、行ないではなくて心が大事。行ないに注目するのは、律法主義。」という理屈で、受け入れてしまうのです。ここでは、そういう問題ではありません。私たちの信仰はもちろん、心の中のことです。しかし、その信仰は行ないとして現れます。行ないと信仰を切り離してよい、とするところに間違いがあります。ここで大事なものは、次のイエス様の言葉です。「マタイ 10:32-33 ですから、わたしを人の前で認める者はみな、わたしも、天におられるわたしの父の前でその人を認めます。しかし、人の前でわたしを知らないと言うような者なら、わたしも天におられるわたしの父の前で、そんな者は知らないと言います。」

3:16 シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴはネブカデネザル王に言った。「私たちはこのことについて、あなたにお答えする必要はありません。3:17 もし、そうなれば、私たちの仕える神は、火の燃える炉から私たちを救い出すことができます。王よ。神は私たちをあなたの手から救い出します。3:18 しかし、もしそうでなくても、王よ、ご承知ください。私たちはあなたの神々に仕えず、あなたが立てた金の像を拜むこともしません。」

すばらしい告白です。ここで、ペテロ第一 2 章 16 節を読みます、「あなたがたは自由人として行動しなさい。その自由を、悪の口実に用いないで、神の奴隷として用いなさい。」とあります。どんな権力であっても、天におられる神に従属していれば、魂は揺るぐことはありません。自由人です。そしてもう一つ大事なものは、神の救いの力を信じているということと同時に、神の主権も信じていることです。つまり、主によって仕えているのであれば、必ず救ってくださいます。どんなことがあっても、救ってくださいます。けれども、主がもうこの時だとお決めになっていけば、そうはなりません。私たちが主に仕えて、もし救われないことがあったら、それは神に能力がなかったのではなく、主がその時までだと決めておられたからです。

4B 神を自分に当てはめない王 28-30

そしてネブカデネザルは怒りに満ち、三人を燃える火の炉に入れます。しかし、彼ら是一切害を受けませんでした。しかも、彼らの歩く真ん中に、第四の者、神々の子がいると王自身が証言しています。そうです。イエス・キリストご自身です。火の中にも、共におられる主です。そして 28 節を見ます。

3:28 ネブカデネザルは言った。「ほむべきかな、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神。神は御使いを送って、王の命令にそむき、自分たちのからだを差し出しても、神に信頼し、自分たちの神

のほかはどんな神にも仕えず、また拜まないこのしもべたちを救われた。3:29 それゆえ、私は命令する。諸民、諸国、諸国語の者のうち、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神を侮る者はだれでも、その手足は切り離され、その家をごみの山とさせる。このように救い出すことのできる神は、ほかにはないからだ。」3:30 それから王は、シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴをバビロン州で栄えさせた。

王自身が、彼らのことを証してくれています。「神に信頼」したので、彼らが救われたと言っています。これはすばらしいことです、私たちのいつも問題となるのは神に信頼する前に、自分で決めてしまうことです。「どうせ、こうなるだろう」とか、「このなった場合はどうなるのだろうか」とか、前もっていろいろ考えて、それで今の行動を決めようとしています。それを不安と言い、恐れと言います。信じるということ、そうすればその時に、必要な力が聖霊によって与えられます。そしてもう一つの証言は、「王の命令にそむ」いているということ。主に従っているのに、王が反対の命令を出しているのであれば、背くのが一貫した行為です。その一貫性に対して、王はほめたたえています。迫害者は、あるいはその背後にいる敵は、私たちが一貫しているかどうか、その信仰告白のとおり生きていくかどうかをじっと見えています。信仰を持っていない人たちの方がむしろ、ごまかすことができません。ちょっとした矛盾は他の信者であれば、霊的な言葉を使って騙せますが、他の人たちはもっと敏感にかぎ分けます。ですから、王に背いても、むしろその一貫した態度のほうが、後でほめたたえられます。

そして、ネブカデネザルについては、彼は神をほめたたえているように見えますが、していません。「シャデラク、メシャク、アベデ・ネゴの神」と呼んでいるだけで、自分の神としていません。その証拠に、自分が神の前でへりくだるのではなく、他の者たちにこの神に仕えないものは、ごみの山とさせると言って、その強硬な姿勢を変えていないのです。心の貧しい者は幸いである、柔和な者は幸いであるというのがイエス様の福音ですから、まだ神を知っていないのです。そこで 4 章です。

3A 王自身のへりくだり 4

1B 自分自身の賛美 1-3

4:1 ネブカデネザル王が、全土に住むすべての諸民、諸国、諸国語の者たちに書き送る。あなたがたに平安が豊かにあるように。4:2 いと高き神が私に行なわれたしるしと奇蹟とを知らせることは、私の喜びとするところである。

これは、彼の統治の後期であろうと考えられます。ですから 2 章は治世の始まり、3 章は半ば、そして 4 章は後期です。彼の文体が柔らかくなっています。なぜなら、自分自身に対して神が行なわれたと言っているからです。他のダニエルの神でも、その友人たちの神でもなく、自分自身に神が行なわれたことを書いています。彼は、神を知ったのです。

2B 王の認める聖なる霊 8、18

4:4 私、ネブカデネザルが私の家で気楽にしており、私の宮殿で栄えていたとき、4:5 私は一つの夢を見たが、それが私を恐れさせた。私の寝床での様々な幻想と頭に浮かんだ幻が、私を脅かした。4:6 それで、私は命令を下し、バビロンの知者をことごとく私の前に連れて来させて、その夢の解き明かしをさせようとした。4:7 そこで、呪法師、呪文師、カルデヤ人、星占いたちが来たとき、私は彼らにその夢を告げたが、彼らはその解き明かしを私に知らせることができなかった。4:8 しかし最後に、ダニエルが私の前に来た。・・彼の名は私の神の名にちなんでベルテシャツアルと呼ばれ、彼には聖なる神の霊があった。・・私はその夢を彼に告げた。

ネブカデネザルは、この時にはダニエルについて、「聖なる神の霊があった」と証言しています。霊があることについて、彼は疑っていません。神々を信じていた彼にとって、霊があることは知っていたのですが、聖なる霊があったと証言しているのです。ここには、ネブカデネザルがダニエルの行ないをずっと見てきたからこそ、語ることのできる言葉でした。思い出しますが、2011年に東日本大震災の津波によって、救援活動に私たち教会は何度も足を運びましたが、その中でイエス様を信じた人が二人おられました。その一人は私たちのことをいつも、「イエスのグループ」とか、「イエスの人々」と呼んでいました。それは神社の人たちも、寺の人たちもだれも助けてくれなかったけれども、あなたがたは助けてくれた。ということで、「神」とは呼びたくなかったのでしょうか、区別してイエス様の名を呼んでいたのです。

そして9節から、その夢の中身を話しますが、大きな木があって多くの実を結び、鳥も住んでいたけれども、聖なる者が来て、木を切り倒し、切株だけにせよと命じたというものです。その切株が、獣のようになってしまうと言っています。それから、いと高き方が人間の国を支配して、へりくだった者を上に立てることを知るためであるということでもあります。そして18節で繰り返し、「あなたにはできる。あなたには聖なる霊があるからだ。」と強調しています。

3B 思慮深い助言 19、27

4:19 そのとき、ベルテシャツアルと呼ばれていたダニエルは、しばらくの間、驚きすくみ、おびえた。王は話しかけて言った。「ベルテシャツアル。あなたはこの夢と解き明かしを恐れることはない。」ベルテシャツアルは答えて言った。「わが主よ。どうか、この夢があなたを憎む者たちに当てはまり、その解き明かしがあなたの敵に当てはまりますように。」

この木がまさにネブカデネザルであることを、ダニエルは示されました。しかし、これが敵に当てはまるように、とダニエルは願っています。この強いためらいに、ダニエルは真実にネブカデネザルの安寧を願っていることが分かります。彼はペテロ第一2章にあるように、心から王を尊んでいたのです。自分の主人に心から従っていたのです。そして解き明かしをしていき、ダニエルは最後に慎み深い助言を与えます。

4:27 それゆえ、王さま、私の勧告を快く受け入れて、正しい行ないによってあなたの罪を除き、貧しい者をあわれんであなたの咎を除いてください。そうすれば、あなたの繁栄は長く続くでしょう。」

ネブカデネザルに対して、政策についての助言をしています。しかし、とても抑えられたもの、思慮深さを見ることができます。ダニエルは、自分で叱責するのではなく、分かっていたでしょう、主ご自身が彼に介入することこそが、彼が回心することができるということです。

4B 自分自身の受けた懲らしめ 28-37

4:28 このことがみな、ネブカデネザル王の身に起こった。4:29 十二か月の後、彼がバビロンの王の宮殿の屋上を歩いていたとき、4:30 王はこう言っていた。「この大バビロンは、私の権力によって、王の家とするために、また、私の威光を輝かすために、私が建てたものではないか。」4:31 このことばがまだ王の口にあるうちに、天から声があった。「ネブカデネザル王。あなたに告げる。国はあなたから取り去られた。4:32 あなたは人間の中から追い出され、野の獣とともに住み、牛のように草を食べ、こうして七つの時があなたの上を過ぎ、ついに、あなたは、いと高き方が人間の国を支配し、その国をみこころにかなう者にお与えになることを知るようになる。」4:33 このことばは、ただちにネブカデネザルの上に成就した。彼は人間の中から追い出され、牛のように草を食べ、そのからだは天の露にぬれて、ついに、彼の髪の毛は鷲の羽のようになり、爪は鳥の爪のようになった。

主ご自身が、彼に介入してくださいました。ダニエルに言われてから一年経った時ですから、彼はもう忘れていたかもしれません。そして、私がこの国の栄光を受け取るべきではないかという、私がという高慢に対して主が、懲らしめを与えられました。高ぶりこそが、主ご自身に近づくことができないようにしていましたが、ついに彼は取り扱いを受けたのです。

4:34 その期間が終わったとき、私、ネブカデネザルは目を上げて天を見た。すると私に理性が戻って来た。それで、私はいと高き方をほめたたえ、永遠に生きる方を賛美し、ほめたたえた。その主権は永遠の主権。その国は代々限りなく続く。4:35 地に住むものはみな、無きものとみなされる。彼は、天の軍勢も、地に住むものも、みこころのままにあしらう。御手を差し押えて、「あなたは何をされるのか。」と言う者もない。4:36 私が理性を取り戻したとき、私の王国の光栄のために、私の威光も輝きも私に戻って来た。私の顧問も貴人たちも私を迎えたので、私は王位を確立し、以前にもまして大いなる者となった。4:37 今、私、ネブカデネザルは、天の王を賛美し、あがめ、ほめたたえる。そのみわざはことごとく真実であり、その道は正義である。また、高ぶって歩む者をへりくだった者とされる。

こうして、彼は主なる神を認めて、ほめたたえています。ここに至るまでのダニエルのりっぱな行ないがあってこそその回心であります。共に上に立つ人と歩む、ということです。